

74 誌上発表

天野芳太郎氏から秋田義雄博士に
贈られたプレインカの頭蓋骨

猪飼 祥夫

北里大学東洋医学研究所医史学研究部

天野芳太郎氏（1898–1982）は、つとに有名な中南米で活躍した実業家であり、アンデス文明のチャンカイ文化の調査研究家でもある。天野氏が収集したインカ文明の遺産は、昭和33年（1958）5月に東京の西武百貨店で「インカ帝国文化展」を開催し、ペルーのリマに天野博物館（1964）として開設されている。

天野芳太郎氏から秋田義雄博士に贈られた古代インカの頭蓋骨は1958年9月10日（昭和33年）横浜港にジャパンエクスプレスの玖馬丸便で到着し、同9月24日に入手と送り状宛名書きに、鉛筆で記されている。宛名書きは「頭蓋 壹個 PREINCA 東京都杉並区和泉町二七四 和泉保健研究所気附秋田外科医院 御中 秘露リマ市天野芳太郎」（宛名に改行あり）とある。保管料などのジャパンエクスプレスの9月24日付けの領収書300円なりが同封されている。送り箱はダンボールで、綿花で頭蓋骨が覆われていた。この頭蓋骨は、秋田博士のご家族秋田紀久子さんから2010年に医学史研究のために猪飼が譲り受け、その後2016年に京都大学理学部人類学教室に寄贈した。ご家族によると天野氏が秋田博士に頭蓋骨を贈った顛末は全くわからないということである。

この頭蓋骨には、「CHANCAI P.G. PRE-INCA. ENERO 14 1957」と骨上にインクで書かれている。このことから1957年の1月14日に発掘されたチャンカイ遺跡の頭蓋骨であるらしい。天野博物館の学芸員、平野香穂里さんによると、P.G.はピスキーヨ・グランデであるとのことである。秋田博士に寄贈した経緯は、天野氏の奥様にも不明だとのことである。平野さんによれば「寄贈された頭蓋骨はチャンカイ文化（11世紀～14世紀、海岸文化）のものですが、頭蓋変形がなされています。インカ帝国はこのチャンカイ文化の後に成立するわけですが、インカ以前から頭蓋変形はかなり古くからされていたようです。チャンカイ文化ではかなり高い割合で出土し、多くの人たちが頭蓋変形をしていたようでこれは、貴族だけでなく庶民にもみられます。」との見解である。頭蓋変形はペルーの海岸地域の文化に紀元前後から顕著にみられるものである。頭蓋変形は生まれて間もない乳児の頭を揺籃に縛り付けて作られたようである。その方法は、頭頂部に一本の紐か布が渡され、八の字のような形に縛ると、左右両サイドだけが膨らんだように成長する。この頭蓋骨もそのような方法で作られたものと思われる。

頭蓋には、また門歯折痕が見られ、頭蓋骨後部にインカ骨が見られる非常に貴重なものである。

天野芳太郎氏は秋田県南秋田郡脇本村（現在の男鹿市脇本）生まれで、南米での事業に成功後、アンデス文明の研究に後半生をささげた。とくに東京大学の泉靖一氏が天野氏を訪れてから、東京大学にアンデス考古学の講座を開設したことは有名である。天野氏の功績は考古学だけにかかわらず、人類学や社会学、文化史などに大きな成果を残されている。とくにこれらの遺跡から発見された人骨は将来の遺伝子研究からの貴重な資料として、大きな意味を持っていると思われる。一方、今日ではペルーからの考古資料の持ち出しは禁止されており、この頭蓋骨は京都大学に残されることにより、日本の人類学研究に将来必ず役立つものと信じている。